

協働のまちづくり協議会（第8回）議事概要

《日 時》	令和2年1月22日（水） 午前9時30分～11時30分
《場 所》	松戸市役所 議会棟2階 第3委員会室
《出席者》	犬塚 裕雅 会長、杉浦 利彦 副会長、長江 曜子 委員、小川 早苗 委員、 秋山 和敏 委員、佐藤 秀樹 委員、門 良英 委員
《傍聴者》	0名

1 開会

2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

3 議 題

(1) 第4次松戸市協働推進計画について

第4次松戸市協働推進計画策定の参考として、協働のまちづくりの現状、理想について話し合うワークショップを行った。

(2) 令和元年度松戸市協働のまちづくり協議会の振り返り

協議会委員から、令和元年度協議会を振り返っての感想や意見があった。

事務局 今年度提案を受けた事業数が、過去最高の数だったというのが印象的。今後これ以上に提案件数が増えた場合の審査のやり方なども検討していく必要があると考えている。

また、採択件数の増加に伴い、助成金の原資となっている「協働のまちづくり基金」の残高が減ってきている点も懸念しており、現在、寄附を増やすための取り組みとして、売上の一部が基金への寄付となるチャリティー自動販売機の設置を増やすことを試みている。

市民活動の広がりや、市としてしっかり支えられるよう、体制を整えていきたい。

委 員 令和2年度実施分の協働事業、市民活動助成事業について、たくさんの団体が多様な切り口で活動をしているというのが印象的。こういう活動1つ1つを大切にして支援をしていくことが、これからの協働のまちづくりには必要だと思う。

委 員 令和2年度実施分の協働事業提案件数が1件だったのは残念である。協働で取り組まなければならない課題はたくさんあるはずなので、もっと市民が参画しやすい仕組みを検討する必要があると感じる。

市民活動助成事業については、活動の活発さに感心した。個人的な意見としては、当たり前すぎる事業は助成事業にしないほうが良いのではないかとと思うので、もう少し制限を厳しくしてもよいのではないかと感じた。

また、10万円の助成金の使途にかなり制限があるので、もう少しフレキシブルに使えるようにするなどの見直しも必要なのではないか。

委員 幅広い分野の活動の提案があり、市民活動の広がりを感じた。

しかし、協働事業の提案が継続の案件1件だけというのは残念に感じた。行政と市民活動団体が同じ時期に同じ課題に取り組んでいないと協働事業に発展しないというのはどうにかならないものかと思う。その時は協働事業の実施に至らなくても、アイデアだけでも次の代につないでいくなどの仕掛けを考える必要がある。

委員 協働のまちが活性化するにも市民活動助成事業が増えていくことは良いことだが、助成金の原資となる基金のことは心配である。今すぐ解決するものではないと思うが、活動を支える体制を作っていくのが我々の役目だと感じる。

委員 一時の事業提案が少なかった時に比べると大きな盛り上がりだと感じる。この盛り上がりを育てていく視点で応援したい。松戸市では各課でかなり協働に取り組んでいると思うので、縦割りではなく横の連携を取ってほしい。他課でやっている事業をもっと発展させるために、協働事業提案制度や市民活動助成制度を活用してもらおうとよい。そして市民が本市の協働の取り組みを知る機会がもっとあるとよい。

委員 現役世代の方々の活動が活発になるような工夫ができればよいと思う。

会長 今回の提案事業を見て、新しく手を挙げてきた団体も多く、団体の新陳代謝も活性化していると感じた。次年度以降もまっど市民活動サポートセンターを巻き込んで、丁寧にサポートしてもらいたい。

4 閉会